

令和元年度実施 朝霞市男女平等に関する市民意識調査結果報告書《概要版》

調査の目的

この調査は、「第2次朝霞市男女平等推進行動計画後期基本計画」（令和3年度から令和7年度までの計画）の策定や、今後の取り組みに向けた重要な基礎資料とするために実施するものです。

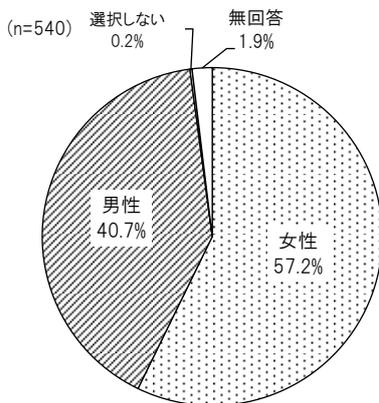
調査の概要

- 調査対象：2,000人（住民基本台帳から18歳以上の朝霞市民を無作為抽出）
- 調査方法：郵送による配布・回収
- 調査期間：令和元年8月22日（木）～9月12日（木）
- 回収数（率）：540票 [有効票540票・白票0票]（27.0%）
 - ・図表中の（n=*）は集計母数を表しています。
 - ・回答の比率（%）は、各設問の回答者数を母数として算出しているため、複数回答の設問については、選択肢ごとの比率を合計すると100%を超えることがあります。
 - ・回答の比率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、属性ごとの回答比率の合計が100%にならないことがあります。
 - ・性別のうち「選択しない」の回答者は1名と僅少だったため、性別クロス集計の分析対象としないこととします。

回答者の属性

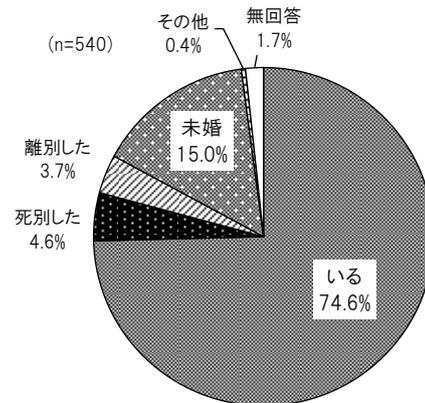
性別

◆「女性」が57.2%で過半数を占めています。



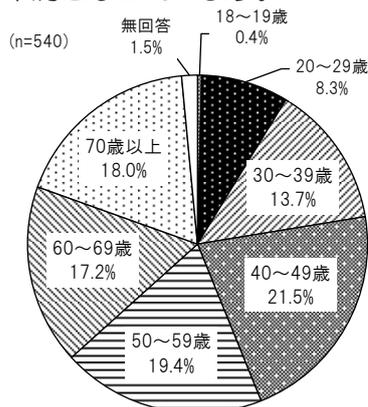
配偶者・パートナー（事実婚含む）

◆「いる」が74.6%で最も多く、「未婚」と「離別・死別」を合わせると23.3%となっています。



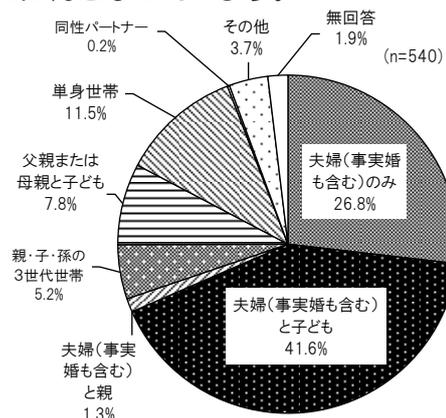
年齢

◆40歳代～70歳以上がそれぞれ17%台～21%台、30歳代は13.7%、20歳代以下は10%未満となっています。



世帯構成

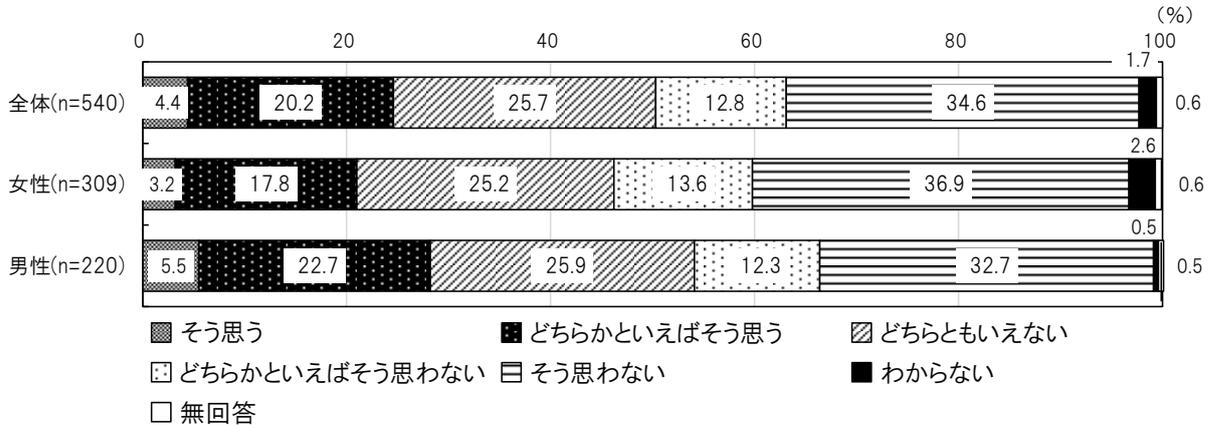
◆「夫婦（事実婚も含む）と子ども」が41.6%で最も多く、次いで「夫婦（事実婚も含む）のみ」が26.8%となっています。



家庭等での男女のあり方について

「男は仕事、女は家庭」という考え方

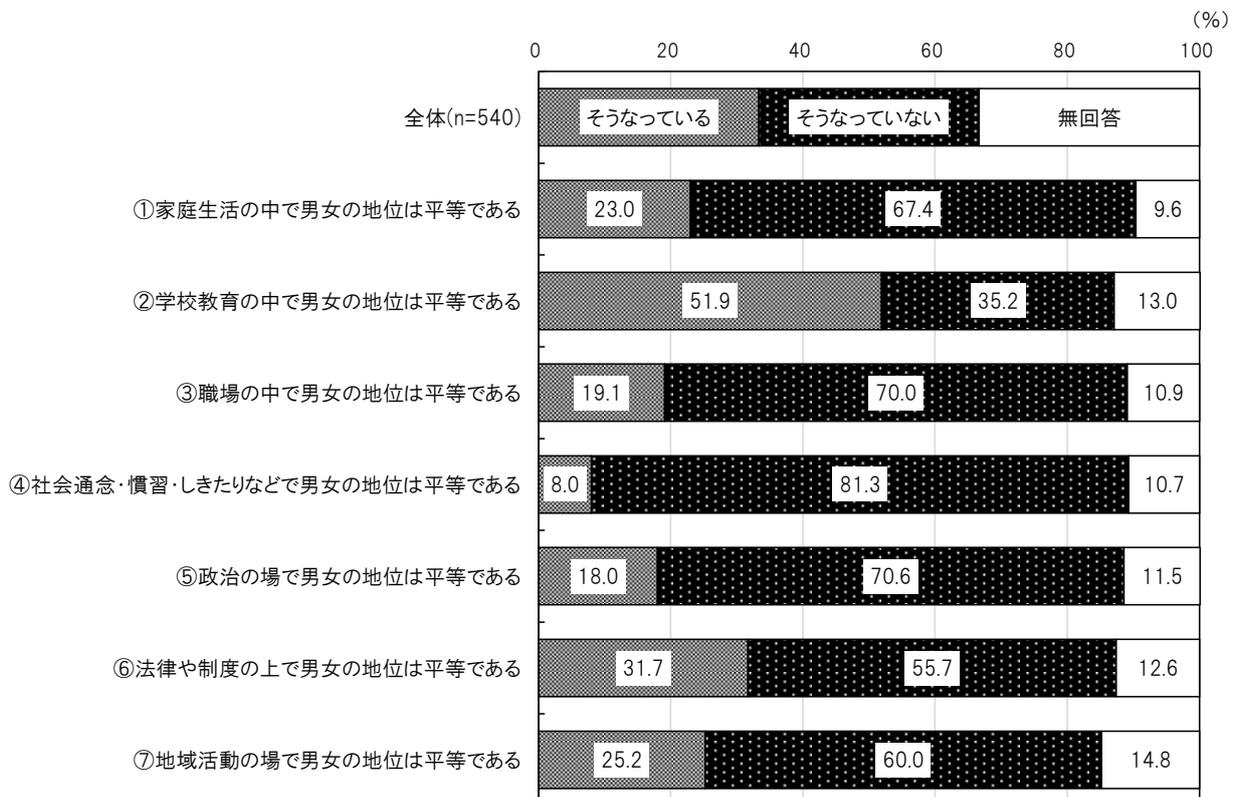
「男は仕事、女は家庭」という考え方について、否定的な意見（47.4%）が肯定的な意見（24.6%）を22.8ポイント上回っています。性別でみると、男女ともに否定的な意見が肯定的な意見を上回っていますが、男性に比べると女性の方が否定的な意見と肯定的な意見の差が大きくなっています。



男女共同参画社会について

男女平等社会のイメージ（現在）

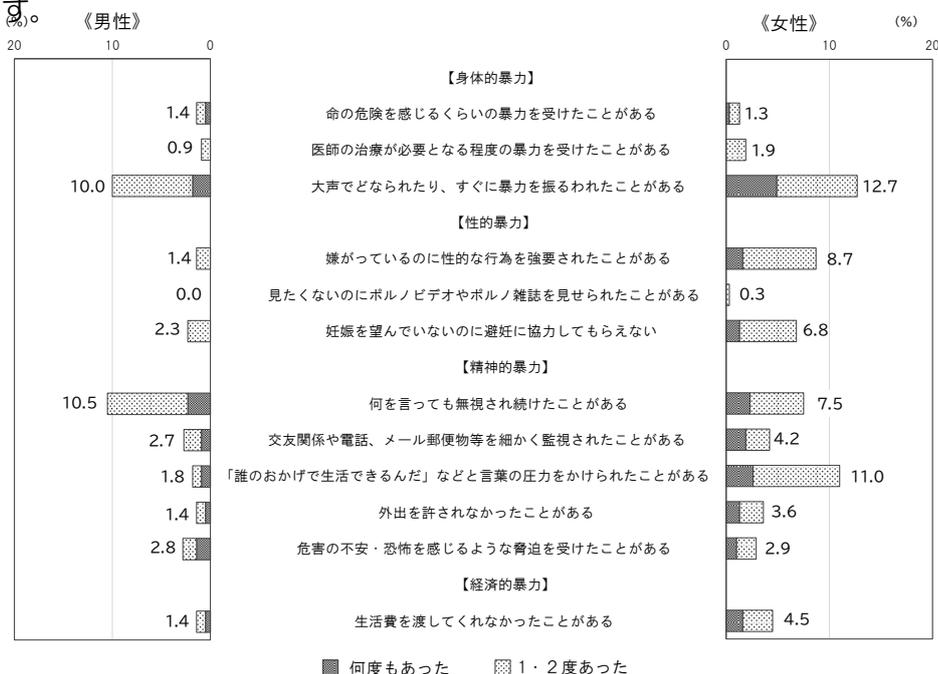
現在の社会全般の男女平等社会のイメージについて、「②学校教育の中で男女の地位は平等である」は「そうなっている」が51.9%で半数以上となっていますが、このほかの項目は「そうなっていない」の方が多くなっています。「そうなっていない」が多い順にみると、「④社会通念・慣習・しきたりなどで男女の地位は平等である」、「⑤政治の場で男女の地位は平等である」、「③職場の中で男女の地位は平等である」となっています。



配偶者等からの暴力について

配偶者等から暴力を受けた経験

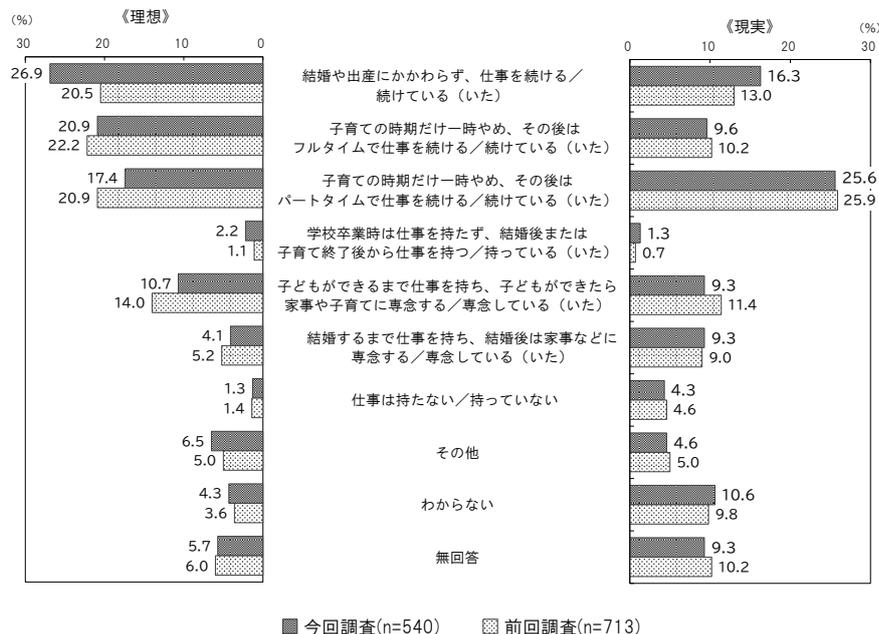
女性の方が男性よりも被害を受けている割合が多く、特に、「『誰のおかげで生活できるんだ』などと言葉の圧力をかけられたことがある」や「嫌がっているのに性的な行為を強要されたことがある」で男女の差が大きい傾向がみられます。



就業状況について

女性の働き方（理想と現実）

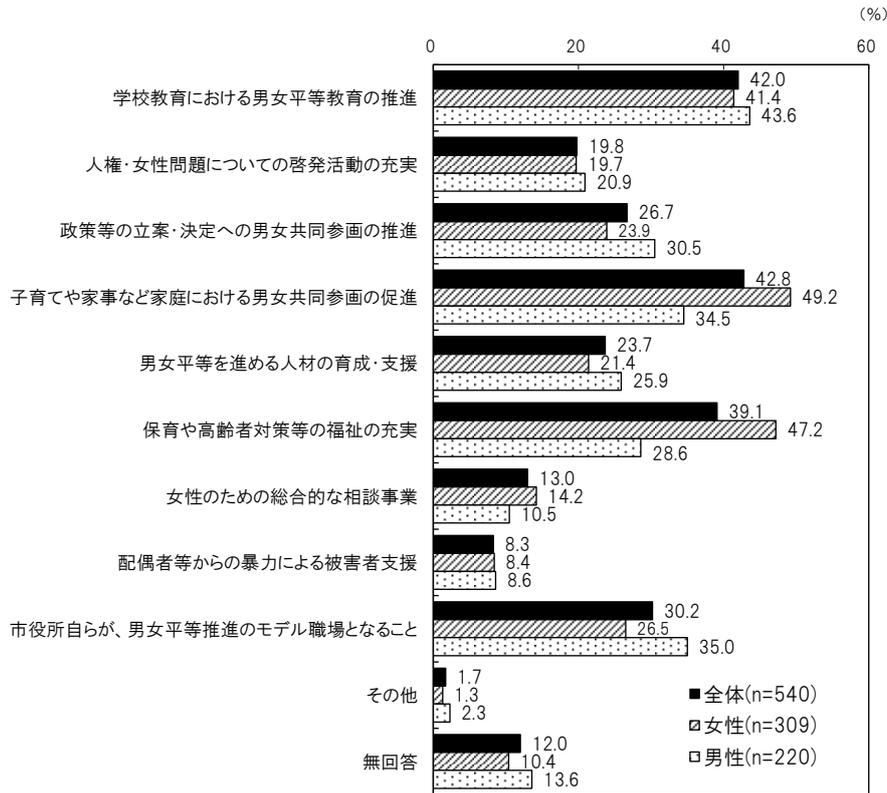
理想での女性の働き方について、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」(26.9%)が最も多く、次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」(20.9%)、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」(17.4%)の順になっていますが、現実の女性の働き方は「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事をしている(いた)」(25.6%)が最も多く、次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(いた)」(16.3%)の順になっています。



市の男女平等施策について

男女平等社会の確立をめざして、市が力を入れるべきこと

男女平等社会の確立をめざして、市が力を入れるべきことについて、「子育てや家事など家庭における男女共同参画の促進」(42.8%)、「学校教育における男女平等教育の推進」(42.0%)、「保育や高齢者対策等の福祉の充実」(39.1%)が上位となっています。性別で見ると、「保育や高齢者対策等の福祉の充実」や「子育てや家事など家庭における男女共同参画の促進」など育児や高齢者対策等への支援に関連する施策については女性の方が多く、「市役所自らが、男女平等推進のモデル職場となること」や「政策等の立案・決定への男女共同参画の推進」など行政や政策決定過程への男女共同参画の推進については男性の方が多くなっています。



性の多様性に対する理解について

性的指向、性自認(SOGI)という言葉の理解度

「言葉も意味も理解していない」が4割以上で最も多く、「言葉も意味も理解している」は10%台にとどまっています。性別で見ると、男性は「言葉も意味も理解していない」が半数近くになっており、女性よりも多くなっています。

